

# 寺町界隈

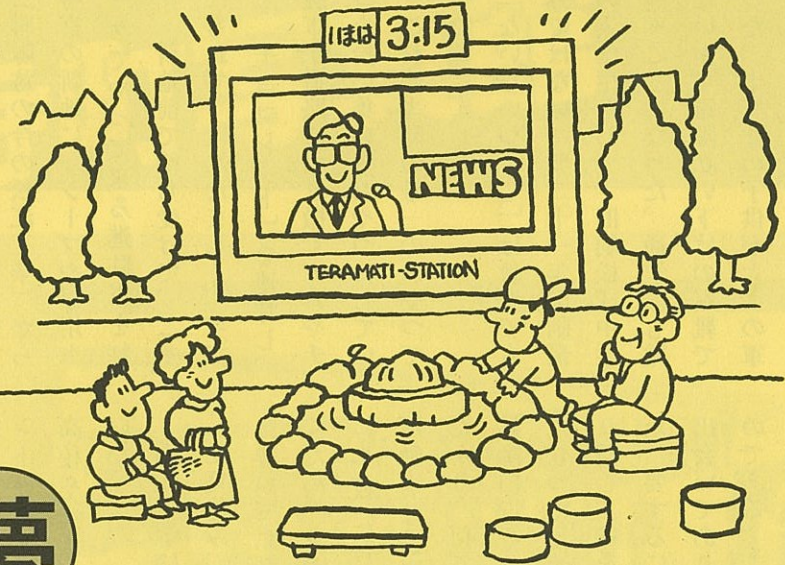
TERAMACHI-KAIWAI

わたしたちの町の、わたしたちの情報誌。2月号 ■発行/寺町のまちづくりを考える会事務局 ☎21-3461  
 ■February 1996 ■Volume 14

## 夢提案

### パノラマビジョン活用法

TVなどでよく見かけけるパノラマビジョン  
 我が町にあったなら…?



## 夢

ビルの壁面などに大型スクリーンを設置。道路、歩道をはさんでポケットパーク（観覧席を含む）操作席を設置する。

### その3 TVゲーム大会 (大型スクリーンでの一大イベント)

TVゲームは体に悪い？  
 でも全家庭の70%の普及率。うで自慢の子供達大集合!



### その1 水郷祭etcの実況中継

ビールを片手に都市型夏祭り。TVならではの、見えないところも見えるかも……  
 しかけ花火もかぶりつき



### その4 地元出場スポーツ応援

会場へ行けない応援団、市民そろって大応援  
 「届け、この大声援」



### その2 スポーツ中継

プロ野球、Jリーグetc  
 スポーツ仲間とワイワイガヤガヤ  
 決定シーンも大迫力



### その5 日常放映

ランチタイムなどきまった時間に映像を提供  
 市民のいこいの場に。



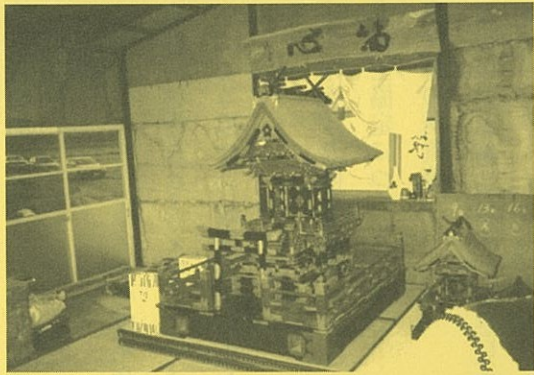
☆山陰ではじめてのパノラマビジョン、なんとか実現したいものです。  
 夢はどんどんふくらみます。(注：寺町の町づくりとは直接関係はありません。)

## ○まちづくりインフラオレーション○

◎八軒屋町の歳徳神等の売却につきまして

昨年十二月の投稿記事に関して、売布神社さんよりお電話を頂きました。年明けに伺い、その間の事情について色々お話を承りました。

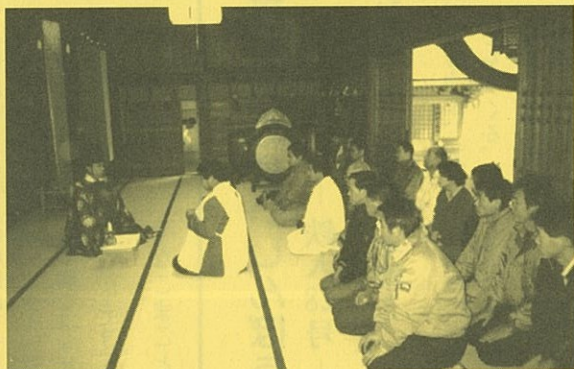
事実関係は、ほぼ投稿の通りで、現在売布神社境内の倉に収



移動ののち曾根能夜神社で鎮座まします御神楽

納されている御輿は、和多見白湯本町の二町のみですが、平成六年までは、八軒屋町のものも含め、三町内の宮蔵が保管されていきました。しかし、同町のもののみ十四年間も使用されておらず、保管状態も良好のものとは、言えませんでした。その上、同町の居住者は半減し、今後の維持も困難な見込みが強かったそうです。

そんな折、たまたま、同町に御出店のH氏の御縁が、斐川町の氷室地区にございました。同地区では、御信仰の念の厚い方々が、氷室神楽というお神楽を大変盛んに行なっておられ、国内のみならず、海外へも公演をなさっておいででした。そういう御縁から、H氏の仲



売布神社での御祈禱

立て、平成六年十二月に斐川町、曾根能夜神社（そぎのやじんじや）へ八軒屋町の神楽は、両地区の篤志家の方々の丁重な神事後、移転されました。

ただ、元をただすと売布神社と曾根能夜神社の御縁は深く、お神楽にとっても大変喜ばしい



ことであつたそうです。そのため、当日の神事には説明のつかぬ不思議な現象もあり、その後両地区は心暖まる交流が続いているそうです。(詳細は紙面上、略。)

なお、費用はあくまでも運送料等諸経費の実費であつた点、申し加えておきます。

(事務局より)

(裏面へ続く)

◎万代町のまちづくり協定について  
 去る十二月三日、万代町の住宅部分の役員さんを中心に、まちづくり協定の説明会をいたしました。

①見栄えより防災対策  
 ②紳士協定について  
 ③交番の誘置等  
 についてお話ししたり、御意見を承りました。年度内に、全町内会員さんへ御説明していきたいと思っております。

(事務局より)

◎北寺町と万代町の交流について  
 昨春秋以来、北寺町のまちづくり有志の方々と、二回程話し合いの機会をいただきました。鑿行列の協力等、検討すべき課題は多々ありますが、お陰様で当町内でも、色々研究いたしております。

(万代町、錦織伸行)

◎昌子酒店さんの移転について  
 昨年十月、黒田町へ移転されました。その後、店舗が閉鎖されたままの為、当会へも各方面よりお問合わせいただいております。

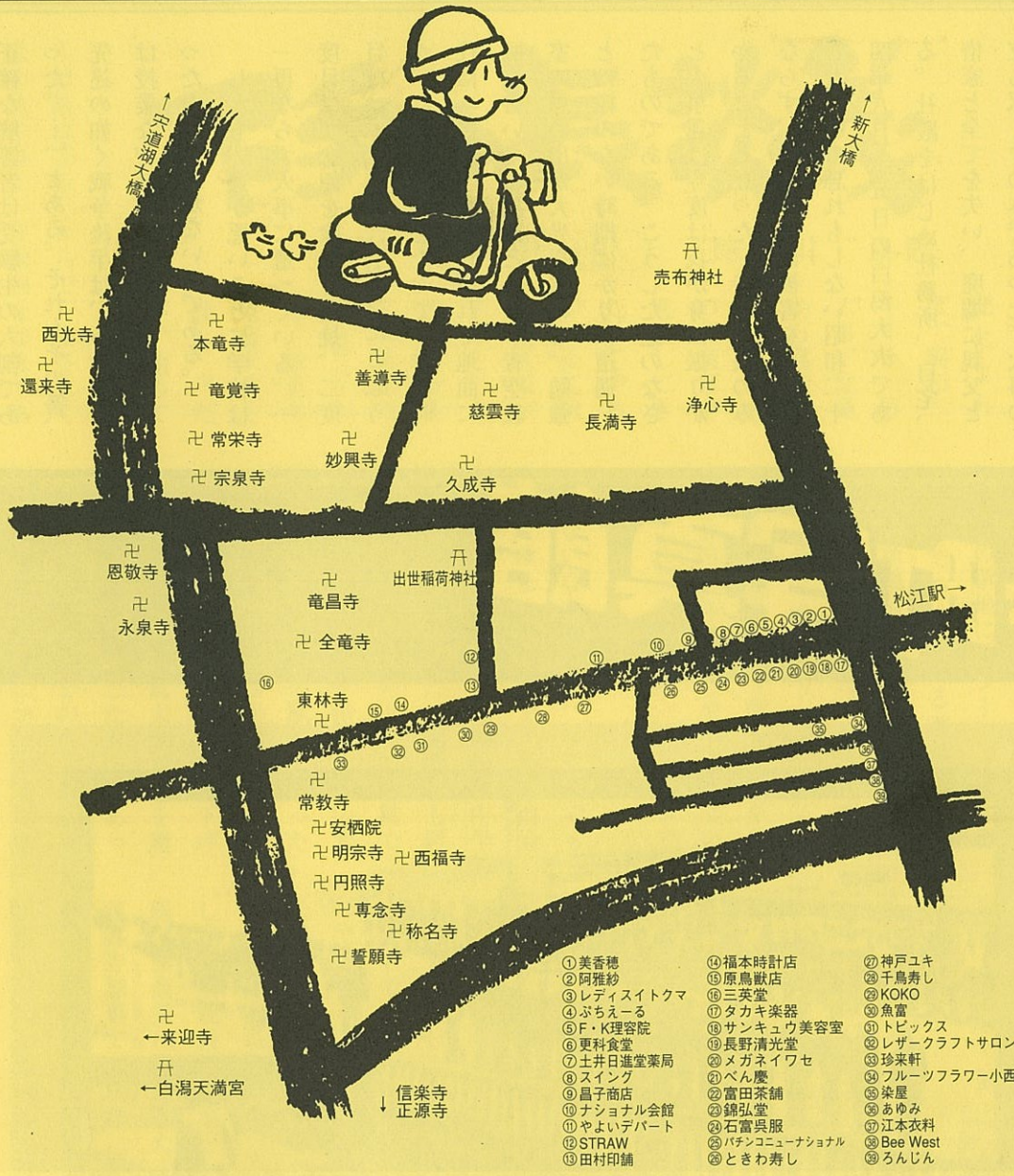
これは、酒類免許の関係上、駅通り店を閉鎖せざるを得ず、現在、道路拡幅後や地区の核店舗との関連での新業態を模索中とのことです。なお、昌子福一会長は、相変わらず、商店会のことで色々御尽力いただいております。

(駅本通り商店会)

◎駅通りの拡幅のスケジュールについて  
 誤りあるといけませんので直接、島根県松江土木建築事務所へおたずね下さい。

(事務局)

松江 寺町界隈 たらまちかい 地図



らんちゅうコーナー

いろいろな「モノゴト」を、ある「カタチ」にするには少なからぬ努力と時間が必要です。「ああでもない」「こうでもない」と努力することを先送りしていると、何の「カタチ」も出来ずに立派なお墓の「カタチ」が出来上がります。まさに春宵一刻直千金。ちなみに「一刻」とは中国語で十五分、英語でも同じく「クォーター」なる表現がありますが、日本語ではなぜか大切にされていない「一刻」です。すなごまこと

裏街道の食いしんぼう 鉄人28号

秘伝 かんたん生姜焼き  
 一、醤油3、酒1、の割合でつけだしをつくる。生姜をすって入れる。(生姜は多くてもかまわないが、多すぎるとからくなる。適当)  
 二、豚肉をつけたしに入れて30分、60分おき、少なめの油をひいたフライパンでしっかり焦げ目がつくように焼く。  
 ご賞味あれ!

編集後記

▽松江サティが元日から営業した。いろいろと言われているが、次元がちがう。店をあけていてもお客様がこない?でも店をあけていないとせつたいに御客様はゼロなのだから。すでに、来年の元旦営業も決定しているとか?

(表紙担当・尾郷)

▽パブル経済の崩壊後、住専に対する公的資金の導入に至る現在、マスコミが中心になり政府・金融機関パッシングを繰り返すが、国民の不満を一極化しようとしているが、何か変だ!

自分は正しく、相手が悪い、何か問題が有るとみんなで悪者を作り上げ自分達の立場を正当化してしまい、建前論を声高に発言し、権利は主張するが、義務には知らん顔、これでいいのだろうか?

自己の責任を自覚し、競争と共調の出来る「わんぱくでもいい」たくましい日本人の一人でありたいと思う。  
 (中村)

▽昨年のXマスイブは、子供連れで広島へ出掛けた。繁華街や天満屋アルパークの夜は、久方ぶりの都会性を堪能した。東急ハンズの賑い、数万個の電飾、そして人工雲...  
 山陰にも一ヶ所所位、こんな処が欲しいですネ。がんばりましょう、宮岡市長さん。  
 (錦織)

ご自慢のお嬢さんの写真募集!!

今後、寺町界隈の女の子さんの写真をシリーズで掲載します。掲載ご希望の方は、詳細を事務局までお問い合わせ下さい。



杉谷美佳ちゃん(小4) 「杉谷商店」



辣の看板娘

# 義談の長手

Part IV 長谷川 良睦

さて、そうこうするうちに、戦後が始まった。こういう情報は逸早く伝わるものである。当時の新聞によれば、昭和二十年十一月六日、尾道から臨時列車で約千人の英豪軍が進駐してきたとあるが、松江駅に進駐軍が来るというので、物見に出掛けた記憶がある。戦争中、鬼畜米英と教わったが、始めて見た異人さんは腕は毛むじゃらで、まさしく鬼ヶ島の鬼という強烈な印象であったことを記憶している。

も読めず、五十一マイナス十五の正確な解答者は受験生の六割であった。……とある。それもその筈、先述の如く戦争後半は、小学校では授業などほとんどない毎日であったから仕方がないのである。しかも、運が悪いことに学校は一再ならず火事に遭っている。一度目は記念館を除いて全焼、二度目は確か一棟だけだったと思うが、これを焼失したので、赤山時代は「幾何」など竹切れで地面に図を書いたの授業という、青空教室の思い出が大半を占める。勉強とは縁のない時期ばかりに遭遇したものである。こうした運のなさとは火事運は今度是我が身に振りかかることとなった。寺町界隈のみならず、白濁一体に被害をもたらした、あの忘れもしない昭和二十四年八月十五日の白濁大火である。社殿をはじめ社務所、自宅、借家と全てを失い、廃墟に親父と立ち尽くすのみであった。火事の思い出は次号でふれてみることにする。

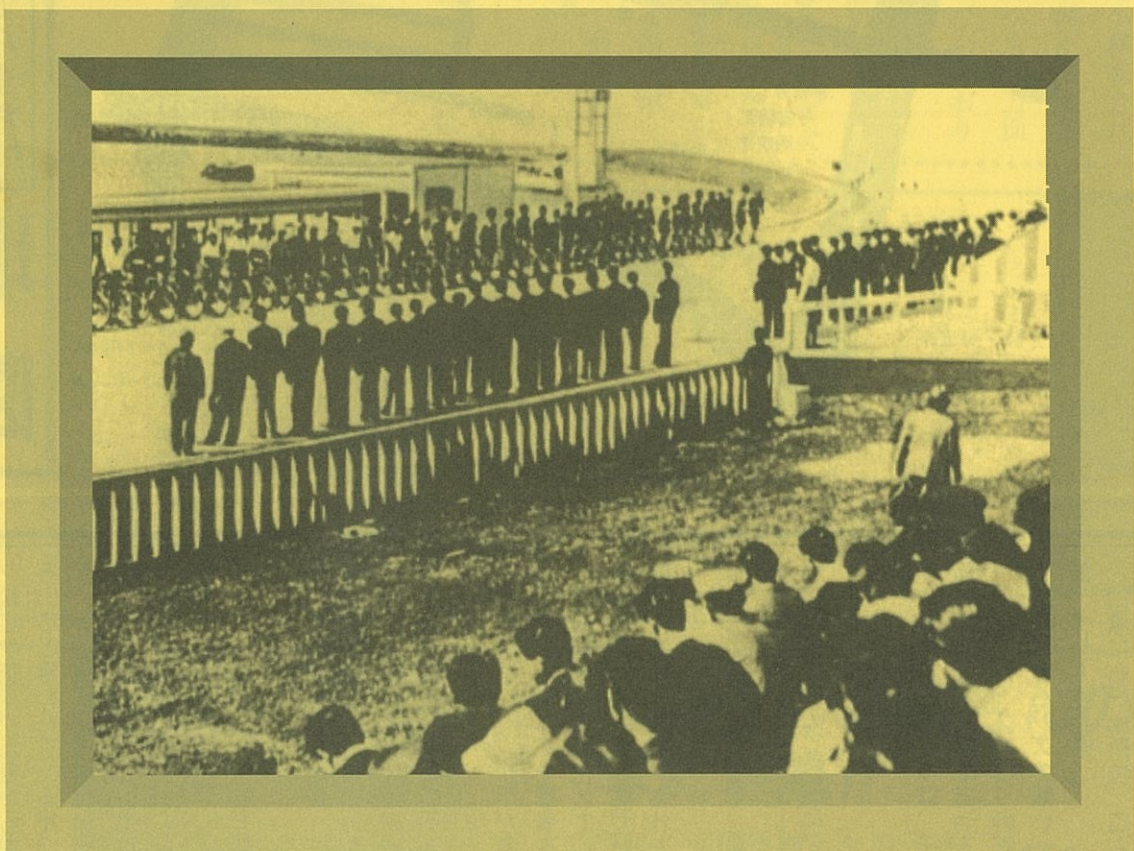
おやつなど無縁な時代であったから、米濠軍が進駐して以来駐屯地（聯隊跡の今の松江工業）から伊勢宮の新地に、ジープや軍用トラックでやって来る進駐軍を毎日々々新地前で待ち受けて、ご多分にもれず、けたたましく「ギブミー チョコレート」を連呼し、進駐軍が道路にバラ撒くガムやチョコを拾い集めておやつにしていた。これが当時の唯一のおやつであった。

「ないないづくし」は教育でも例外ではない。翌二十一年旧制最後の入学生として、旧制松江中学に通うことになった。通学にも靴がないから軍隊払い下げの軍靴であった。十三才の子供が大人の軍靴を履くから奇妙な風景であったろう。さすがにもはやゲートルは巻かなかつたが、同じく払い下げの布製の背囊を背に大きな靴を履く姿は戦後を象徴したものであったろう。しかし、そのうち旧制高校に做った高下駄にマント姿で通うようになったから、不恰好は一時

時期のものであったようだ。マントと高下駄は高校卒業まで続いた。松江中学に入学した夏休み、叔父を尋ねて京都に行くため、学割貰いに学校に行くと、運動場は物凄い人だかり。何ごとかと昇降口近くの小屋の屋根に登って見渡すと、棒切れを振り回し、球を投げている姿があった。要するに、野球との初めての出会いであり、県予選を観覧したのである。この年、松江中学は甲子園が進駐軍に接収されていたため西宮球場での夏の大会に出場し、一回戦敦賀商業を一蹴、二回線下関商業に惜敗した。同年秋の藤井寺球場での国体に出場し、京都二中に惜敗、翌年春の選抜にも出場し、中京地区の津島中学に〇―一で破れたが、これを契機に野球に明け暮れる毎日となった。中学での勉強といったら、まず鼠色の粗悪な新聞大のものを、自分で切り揃えて教科書を作ることから始まった。入学時のことを北高百年史で緋いてみると、「……戦後初の入学生の学力は、読書力、計算力共に甚だしい低下を示し、試験委員の先生の話では、受験生の半数が国民学校（小学校を戦時中は国民学校と称していた）の三年生程度の力で、「出雲・紫・鶯」



## 寺町写真館



### 松江競輪場

1950年（昭和25）5月30日に行われた松江競輪場の開場式。自主財源を生み出そうと、現在の末次公園に1周300メートル、9車立て、真ん中の池には朱塗りの橋がかかっているというユニークな競輪場だったが、赤字のため3年後には廃止となった。

写真提供／山陰中央新報社